

日本臨床検査医学会 2014 年度 第 2 回理事会（理事総会）議事録

日 時：2014 年 7 月 5 日（日）12：00～15：30

場 所：日本臨床検査医学会事務所

出席者：村田 満理事長，前川真人副理事長（兼 JCCLS 連絡委員），山田俊幸総務理事，諏訪部章会計理事，
米山彰子庶務理事，
小柴賢洋，藤田清貴，東條尚子，清水 力，賀来満夫，本田孝行，清島 満，康 東天 各理事，
尾崎由基男 監事

水口國男（同学院），三宅一徳（臨床検査専門医会），山館周恒（臨床検査自動化学会）連絡委員（以上 17 名）

欠席者：安東由喜雄，佐守友博，北島 勲，野島孝之，横田浩充，一山 智，杉浦哲朗 各理事，
高木 康 監事（8 名）

会に先立ち、村田満理事長から挨拶があり、小柴賢洋 理事、清島 満 理事を 議事録署名人に定めて理事総会の議事を進めた。

I 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の 2014～2015 年度の支部例会・総会予定、支部地方会予定、支部所属の人事変更等について報告された。

2. 関連団体報告

1) 日本臨床検査同学院（水口國雄 同学院 理事長）

平成 26 年 4 月 1 日付で内閣府より公益法人の認定を受けたこと、ただ遺伝子分析科学認定士試験業務については公益性が認められなかったため、一般社団法人日本遺伝子分析科学同学院を 2014 年度 3 月 14 日に設立して認定事業を移行したこと、各種認定試験、緒方富雄賞授賞式及び公開講演会、部会活動（実技講習会）通信発行状況、関連団体との会合等の平成 25 年度報告、平成 26 年度予定について報告された。

2) 日本臨床検査専門医会（三宅一徳 連絡委員）

会員動向、平成 26・27 年度役員体制、平成 26 年度の総会、全国幹事会、常任幹事会、出版物、教育・研修活動、広報・渉外活動の予定、そして、5 月 30-31 日に札幌で清水力会長のもと第 24 回春季大会が開催されたこと、また、平成 27 年度運用開始を目指して専門分野別ネットワークシステムの開発を行っていることが報告された。

3) 日本臨床検査標準協議会（前川真人 連絡委員）

平成 26 年度事業計画として、重点目標、8 月 29 日に「臨床検査標準化への新しい動き：パネル血清によるグローバルハーモナイゼーション」というテーマでの学術集会の予定、ISO ガイド 34 及び ISO/IEC17025 及びに基づく標準物質生産者維持審査、CLSI 文書翻訳本の発行、経済産業省委託事業パネル血清及び測定前プロセス等に関する国際標準化の計画、会誌発行予定、各種委員会活動内容、平成 26 年度収支補正予算案等について報告された。

4) 日本臨床検査自動化学会（山館周恒 連絡委員）

平成 26 年度以降の事業計画、第 28 回春季セミナー(2014/4/5,金沢音楽堂,和田隆志例会長)、第 46 回大会(2014/10/9～10/11,神戸国際会議場,石井潤一会長)、第 47 回大会(2015/10/8～10/10,パシフィコ横浜,山館周恒会長)、第 29 回春季セミナー(2015/4/25,萱場広之例会長,弘前市)、第 30 回春季セミナー(2016/4,前川真人例会長)、また、第 61 回日本臨床検査医学会会期中に共催シンポジウムとして POC セミナー「血液ガスフェア」を予定していること等が報告された。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会（藤田清貴 担当理事）

平成 26・27 年度の学術推進プロジェクト研究課題は 13 題の応募があった。研究計画の独創性・先進性(5 点)、研究計画の実効性・妥当性(5 点)、臨床検査医学・医療における発展性・将来性(5 点)の合計(15 点)の基準で審査し、委員の審査結果により集計し、委員会を開催し審議して採択課題を 4 題選定した。研究助成金は、1 題は 2 年間で 200 万円、3 件は 100 万円としたことが報告された。

理事会後に、結果を応募者に通知するとともに、臨床病理誌と HP で公表する。

2) 編集委員会（山田俊幸 総務理事 横田浩充 担当理事欠席のため）

2014年5月28日に編集委員会を開催した。論文投稿時のCOI開示を義務付けるため、投稿時のCOI報告書、COI指針、処分事項等を検討したこと、トピックスの執筆者は出来る限り会員から選定すること、また図表は原則モノクロとすること、トピックス提案を評議員にも依頼すること、投稿チェックリストの印鑑部分を削除し共著者の論文作成への関わりを明記すること、英文誌発行の検討、優秀論文賞の選定を7月の委員会で行うこと、62巻5月号に落丁本が数冊あり、あった場合には落丁のない本と交換することとし、6月号にお知らせする手紙を同封したこと等が報告された。

3) 教育委員会（山田俊幸 委員長）

専門医研修プログラムの最終 version をまとめ、指導医マニュアルを作成中であること、2014年の第61回学術集会時に委員会企画として「臨床検査を学ぶ若手の集い」、「RCPC シンポジウム（仮題）」の企画案を作成中であることが報告された。

4) 標準化委員会（前川真人 担当理事）

使用する試薬により TSH 測定値が乖離するとの報告があり、ガイドラインに基づく治療にも影響が出ると考えられるため、国内で最も使用されている4つの TSH 測定試薬を用いて患者血清を測定し乖離の実態を調査する予定であることが報告された。

5) 精度管理委員会（山田俊幸 担当理事、前川真人 委員長）

昨年、企画した委員会主催シンポジウム「外部精度管理と技能試験、その重要性と取組み」を第61回学術集会で行うことが報告された。

6) 検査項目コード委員会（康 東天 委員長）

2014年5月末までにJLAC10コード、分析物コード7件、識別コード6件の新規登録、結果識別（固有）コード145件を実施したこと、迅速に付番するための新運用を開始したこと、臨床検査項目標準マスター運用協議会と連携し同マスターに関する提言書を作成、公開したことが報告された。

7) 広報委員会（小柴賢洋 委員長）

当会 HP の改訂について、臨床検査振興協議会の HP 改訂を参考に案を考える予定であることが報告された。

8) 利益相反委員会（諏訪部章 担当理事）

委員長が編集委員会に出席し論文投稿時のCOI開示を義務付けるよう依頼したこと、役員等のCOI自己申告書案を作成したこと、細則は作成が遅れているが、8月末までに最終案をまとめるよう作業中であることが報告された。

10) チーム医療委員会（米山彰子 担当理事、諏訪部章 委員長）

第61回学術集会で日臨技と共催シンポジウム「医療従事者間のコラボレーション～チーム医療に対する取り組みと検査部に期待すること～」を企画したこと、日臨技より検査説明・相談ができる臨床検査技師育成WGへの委員推薦依頼があり、担当理事と委員長が派遣委員となったこと、厚労省研究班「医療従事者の業務範囲拡大に関する研究（北村聖班長）」へ委員長が参加し、臨床検査技師の業務拡大に関するWGの委員長となったことが報告された。

11) 会則改定委員（米山彰子 担当理事）

3月29日の定時社員総会で社員から「理事・監事に欠員が生じた時の細則」について、補欠として選任される理事の年齢についての質問があり委員会で検討し、細則の「本法人の理事は、就任時に満63歳以下であることを要する」に則り、補欠も含め、それに従うのでよいのではないかとなくなったことが報告された。

12) 学会賞委員会（村田 満 理事長）

2014年度学会賞への応募に関して事前審査のうえ7月25日に委員会を開催し受賞候補者を決定する予定であることが報告された。

13) 国際委員会（村田 満 理事長）

国際学会奨励賞の2012年度と2013年度発表の応募について委員会で受賞候補者をそれぞれ決定する予定であること、国際学会奨励賞のあり方についても検討していくことが報告された。

4. 第 61 回学術集会報告（福岡 2014/11/22(土)～11/25(火)）（康 東天 会長）

2014 年 11 月 22 日(土)～11 月 25 日(火)に福岡国際会議場において開催予定の第 61 回学術集会の特別講演、教育講演、シンポジウム、関連学会企画共催シンポジウム、委員会企画の内容、プログラム、日程表が示され、一般演題は 424 題応募があり順調に準備が進んでいることが報告された。

5. 第 62 回学術集会報告（岐阜 2015/11/19(木)～11/22(日)）（清島 満 会長）

2015 年 11 月 19 日(木)～11 月 22 日(日)に長良川国際会議場、都ホテルにおいて、「臨床検査の発展～豊かな医療への懸け橋」というテーマで開催予定であることが報告された。

6. 2014 年度臨床検査専門医認定試験について（東京 2014/08/02-08/03(土-日)）（村田 満 理事長）

8 月 2 日～3 日(土日)予定の臨床検査専門医試験に向け 5 月 17 日(土)に試験実行委員会を開催し、筆記試験の作成方針、実技試験内容、今後の予定等を検討したこと、また、日本専門医機構によるあらたな認定制度対応のため試験内容の検討、次年度からの筆記試験問題一部公開に向けた検討、MCQ 問題作成の評議員への協力依頼の検討等について報告された。

7. 2014 年度臨床検査管理医講習、認定試験について（東京 2014/09/21(日)）（東條尚子 試験実行委員長）

第 6 回臨床検査管理医講習・認定試験実施要領、当日のプログラムが示され、9 月 21 日(日)東京医科歯科大学において実施予定であることが報告された。

8. 本学会からの関連団体委員推薦について（更新）（村田 満 理事長）

3 月 29 日以降に関連団体に下記の通りの派遣委員を推薦したことが報告された。

- 1) 任期 2014/6/29～2 年間 日本医師会 疑義解釈委員として宮澤幸久先生、矢富裕先生を推薦。
- 2) 2014/6/1～ 臨床検査振興協議会 医療政策委員会委員として登勉先生を推薦。
- 3) 2014/6/18～2 年間 日臨技 認定心電検査技師試験 WG 委員として石井潤一先生、中山智祥先生、古川泰司先生、本間博先生、横山直之先生を推薦。
- 4) 任期 2014/6/1～2015/5/30 財)医療関連サービス振興会 医療関連サービスマーケティング改定 WG 委員として佐守友博先生、その代委員としてメ谷直人先生を推薦。
- 5) 任期 2014/6/1～2015/09/30 日本医療安全調査機構「診療行為に関連した死亡の調査分析事業」
統括責任者並びに中央審査委員推薦担当者：吉田博先生
北海道地域推薦窓口担当者：栗林景晶先生、東北地域推薦窓口担当者：五十嵐雅彦先生、関東地域推薦窓口担当者：三井田孝先生、中部地域推薦窓口担当者：湊宏先生、近畿地域推薦窓口担当者：日高洋先生、中国四国地域推薦窓口担当者：末広寛先生、九州地域推薦窓口担当者：池田勝義先生 を推薦。
- 6) 2014/1/1～ ASCPaLM 理事として前川真人先生を推薦。
なお、Secretary/Treasurer を国際委員会で選定し推薦予定。また、2016 年には President-Elect、2020 年には President となり日本で ASCPaLM を主催することとなる。

9. 評議員辞任（退社）について（村田 満 理事長）

北海道支部の評議員だった千葉仁志先生、寺井格先生が 3 月 8 日に、眞船直樹先生が 5 月 11 日に退社届が提出されたため定款に則りそれぞれ 1 カ月後に退社を認めたことが報告された。

10. 臨床検査技師等に関する法律及び医療法の改定骨子について（村田 満 理事長）

臨床検査技師等に関する法律及び医療法の改正の検討が、自由民主党衛生検査所に関する制度推進議員連盟において進められており、検体検査の分野に関する改正、検体検査業務の受託者の基準等に関する改正、施行期日等についての骨子（案）が了承されたため、今国会に提出予定であることが報告された。

11. 会計顧問の交代（引継ぎ）について（諏訪部 章 会計理事）

2011 年より蛤谷会計事務所の蛤谷国男先生に会計顧問を依頼していたが、当会担当の野澤孝志氏が税理士資格を取得し蛤谷先生の考えにより独立することとなり、これまで担当していた野澤氏（野澤孝志税理士事務所）に当会顧問を交代することが報告された。

12. その他

事務パート職員の採用について（村田 満 理事長）

5 月に、ハローワーク、an、mixy の求人媒体で募集し、常任理事会で面接者を選定し、面接と小論文により瀬戸口友佳子氏を採用とし、6 月 23 日から勤務していることが報告された。

Ⅲ 審議事項

1. 第 60 回学術集会収支決算報告について（神戸 2013/10/31(木)～11/3(日), 矢富 裕 会長）（諏訪部章 会計理事）
第 60 回学術集会より野澤孝志税理士に会計に関する資料等を送り、確認、会計入力し、収支報告書がまとめられた。4 月 23 日に当会へ収支差額の 16,080,193 円が返金されたことが報告され、特に問題はなく承認された。

今後の学術集会への補助金が検討され、JACLaS からの寄付金の 1200 万円と、一般会計から 500 万円ではなく、2000 年までの補助金と同額の 200 万円か、あるいは JACLaS からの寄付金のみとするなど考えられるが、会計理事、常任理事で検討して案をまとめることとなった。

2. 平成 26・27 年度各種委員会委員について（村田 満 理事長）

3 月 29 日の第 1 回理事会で平成 26・27 年度各種委員会が承認されたことにより、各委員会の担当理事、委員長相談のうえ委員等の推薦があった。常任理事会で確認をした名簿が提示され、承認された。

なお、委員会委員長、副委員長、委員等の任期は、役員の任期と同じ 2 年後の定時社員総会までであることを確認した。

3. 医学研究の利益相反（COI）に関する自己申告書（案）について（村田 満 理事長、諏訪部章 担当理事）

利益相反委員会で検討した役員等の COI 自己申告書が提案された。対象は、役員、学術集会長、支部会会長、委員会委員長、委員、アドバイザー、外部委員、作業部会委員に、一人一枚で申告し紙ベースで 2 年間保管する方向で進めていくこととなった。ただ、実際の方法と細則については、利益相反委員会が検討することとなった。

4. 学術推進プロジェクト助成金について（藤田清貴 担当理事）

2014 年度の学術推進プロジェクト研究助成金は、2014 年度予算で学会賞基金に予算立てされているが、学会賞副賞等と合すると 230 万円赤字となっていることは、監事から問題があると指摘があり、学術推進化委員会に検討依頼がされており、委員会の際に検討を行った。

本委員会では、年間 250 万円の研究助成金を維持しながら如何に申請課題数を増やすかを 2 年前から改善策を考え実行している。具体的には採択課題数を絞り込み、1 課題の助成金額の増大を図り、今回も申請課題数は増加傾向を維持しており、学会活性化および学術活動の向上、若手研究者育成のためにも魅力ある研究助成金の予算確保が今後も重要と考えられるため、学会賞基金の増額を含めた赤字にならない予算案の作成と研究助成金の予算維持もしくは増額の検討をお願いしたいと報告された。

学会賞基金での予算ではマイナス予算となるため、元通り一般会計に予算立てするにしてもこちらも赤字予算になる可能性があること、学会賞基金への寄金を更に得ることはできないか、学術集会からの返戻金を学会賞に組み入れてはどうかなどの意見があったが結論には至らなかった。

これについては、2013 年に学会賞委員会で学会賞について再検討し、当会の規模に合い、会員から応募し易い賞となるよう規定を改定し、企業と賞の一对一対応を止め学会賞の件数を絞った。その結果、副賞の予算が 250 万円から 150 万円程度にできることもあり、学術推進化プロジェクト研究課題助成金としても使用できることを規定に盛り込み、2013 年 3 月 24 日の理事会でも承認されていた経緯もあるため、理事会での意見を参考に会計担当、常任理事会で再度検討することとなった。

5. 日本医学教育学会からの共同企画の提案について（村田 満 理事長、山田俊幸 教育委員長）

日本医学教育学会より、共同企画の提案があり、当会でも何か共同企画できるものがあるか検討され、医学教育学会から共同企画が可能な例として挙げている学会の認定資格制度の中に実技試験を取り入れるための制度設計が、臨床検査専門医認定試験の実技試験の標準化と合うという意見があり、試験委員会に検討を依頼することとなった。

6. IVD「臨床検査室グローバルニュース」について（村田 満 理事長）

昨年 12 月 14 日の理事会で、臨床病理誌を送付する際、CGI の季刊誌 IVD 臨床検査室グローバルニュースを 2 冊同封されていることが、CGI 一社のみを優遇している印象を受けるため、利益相反委員会に検討依頼することになっていた再確認で意見が求められた。

もともとは、2009 年に CAP サーベイ事務局がシノテストから CGI に移管した際に、CGI より CAP が出版している CAP Today を翻訳した季刊誌 IVD 臨床検査室グローバルニュースを臨床病理誌に同封する要望があり、2009 年 8 月 8 日の第 3 回理事会で精度管理委員会が冊子作成を監修することを条件として承認されていた。

しかし、一企業だけへの優遇、そして、大変、参考になり興味がある内容ではあるが、広告が多いことが問題である。広告料の支払い、あるいは、精度管理委員会が監修しているのであれば編集料の支払いを求めるのはどうか、その他も同様の同送広告を募集してはどうかなどの意見が出され、それらの意見を踏まえて利益相反委員会に検討を依頼することとなった。

7. その他（米山彰子 庶務理事）

2014年度の次回以降の理事会日程について確認がなされた。

第3回：10月18日(土) 正午～、第4回：12月27日(土) 正午～（予定）

IV 懇談事項

1. 検体検査管理加算の施設基準における「臨床検査を専ら担当する常勤の医師」について（村田 満 理事長）

検体検査管理加算の施設基準における「臨床検査を専ら担当する常勤の医師」についての解釈が都道府県により異なっているため、それぞれの地域で臨床検査を担当する医師が対応に苦慮している。そのため、当会としては、平成8年に当時の厚労省保険局原徳壽課長補佐が「外来を多少担当するのはいいが、勤務時間の8割以上は検査部の常勤すること」を条件としてあげた発言があり、それで統一されることを主張、要望していくことを申し合わせた。

2. 特定機能病院の要件について（村田 満 理事長）


特定機能病院の承認要件のひとつとして、医師の配置基準の半数以上が配置基準対象の専門医とすることがあるが、基本領域の学会である当会の臨床検査専門医が含まれていない。そのため、臨床検査専門医も含めるよう関係機関等に働きかけていくこととなり協力依頼がされた。

V 閉会の挨拶（前川真人 副理事長）

前川真人副理事長より閉会の言葉があり本理事会(理事総会)は閉会された。

以 上

署名捺印欄

清島 満 

小柴 賢洋 